

山行報告書

報告書作成

2013/8/13

山名 [山域]	朝日岳(2418m)ー柵海新道	目的と方法	柵海新道を下り日本海へ
登山期間	2013年8月9日～12日	山行形態	テント泊
参加人数	3名		

1日目(前夜発)

集合地(2020) == 岡崎IC(2030) == ひるがのSA(2210,2220) == 城端SA(2315)TS(2345)

2日目(8/10)北又小屋～朝日小屋

TS(400) == 有磯海SA(455,515) == 朝日IC(530) == 黒東TX(545,600) == 北又小屋(645,700) -- 二合目(805,815) -- 三合目(835) -- 四合目(905,920) -- 五合目ブナ平(940,1008) -- 六合目(10:25) -- 七合目(1046,1105) -- 八合目(1130) -- 九合目(1147,1200) -- イブリ山(1217,1240) -- 夕日ヶ原(1355) -- 朝日小屋(1515)TS

3日目(8/11)朝日小屋～柵海山荘

TS1(415) -- 朝日岳(530,545) -- 吹上のコル(630,640) -- 照葉の池(705,725) -- アヤマ平(815,830) -- 黒岩平水場(1010) -- 黒岩山(1048,1100) -- 文子ノ池(1125,1140) -- サワガニ山(1245) -- 北俣ノ水場(1335,1405) -- 犬ヶ岳(1456,1510) -- 柵海山荘(1520)TS

4日目(8/12)柵海山荘～日本海

TS2(415) -- 黄蓮山(536) -- 黄蓮の水場(605,640) -- 菊石山(656) -- 下駒岳(755) -- 白鳥山(920,955) -- シキ割の水場(1058,1120) -- 金時坂の頭(1131) -- 坂田峠(1210,1222) -- 尻高山(1305,1325) -- 林道交差(1357) -- 二本松峠(1412,1425) -- 入道山(1442) -- 送電鉄塔(1535) -- 柵海新道登山口(1550) -- 日本海(1600,1650) -- 天険P(1700) == 黒東TX(1730,1740) == らくちーの(1755,1810) == そば「くちいわ」(1920,2005) == 朝日IC(2010) == 鞍ヶ池SA(2330,2346) == 岡崎IC(2405) == 集合地

memo a

高速代金 岡崎IC→朝日IC 3,500円
朝日IC→岡崎IC 3,500円
TAXI 代金
黒東タクシー→北又小屋
6,300円 (9,300-3,000割引)
天険P→黒東タクシー 4,710円

memo b

朝日小屋 テン場代金 500円 (1人)
ビール代金 700円 (500ml)
500円 (350ml)
食費 5,000円 (朝×2 夜×2)
menu: ひつまぶし 風うな丼 和風パスタ
らくちーの(湯) 貸しタオル付き 525円
そば「くちいわ」 参考: ミニかき揚げ天丼とそばセット
1,150円 (ボリューム多)



水場	
・ブナ平 往復10分以内	下りが少ないので行き易い
・朝日小屋 0分	整備されている水場
・黒岩平 0分	登山道にある。痛いほど冷たい水
・北俣ノ水場 往復10分以内	看板は有るが倒れていた
・黄蓮の水場 往復10分以内	
・シキ割の水場 0分	登山道横にある

日誌 前泊したSAは第二駐車場に車を停めたが、後から続々来た車のエンジン音で眠れなかった。登山道は終始明瞭で、テープも○印もたくさんあり、各ポイントにはサワガニ山岳会お手製の凝った標識があった。急な場所には梯子や階段、ロープがついていた。とても細やかに整備されてる印象を受けた。

①北又小屋からイブリ山までは林道で、寝不足と歩荷の中ひたすら登る。イブリ山のベンチでお昼ごはん。そこから先は所々に木道があり、夏の花が少しずつ増え、夕日ヶ原はお花畑の中だった。雪渓の冷たい水で顔を洗い、最後ひといきを登ると朝日小屋だ。賑やかなテン場の中、私たちもビールで宴会をした。

②暗い中出発。少し登って振り返ると朝日小屋とテントにぼつぼつ灯りが灯って、綺麗だった。朝霧の中登り、朝日岳に到着。強風の中、一瞬だが展望が開け、白馬連峰を見られた。下りは朝日を浴びたお花畑だ。種類が多すぎて早々に名前を覚えるのをやめ、観察に専念した。目を凝らすほど、繊細な色彩に惹き込まれる。吹上げのコルは蓮華温泉と柵海新道の分岐だ。覚悟を決めて柵海新道へ踏み込んだ。進んだ先は足の高い木道が先まで伸び、雪解けの池や花の群落が続いた。ヒオウギアヤメの群落を過ぎるとアヤマ平だ。水場を過ぎるとお花畑も終わり、ひたすら尾根を歩く。何度登って下ったのかも分からない。疲れと暑さのピークでモウロウとなる頃、北俣ノ水場に到着。冷たい水で生き返ったが、ここで3リットルの水を積み最後の急登に挑んだ。両手を使う程の急登、細い岩尾根の下りが続いた。緊張と暑さがあまりに過酷で犬ヶ岳に着いた時は疲れてしばらく口がきけなかった。そこから柵海山荘が見えた。すこし低い山のてっぺんに小屋とテン場だけがあり、天空の小屋だと思った。小屋はサワガニ山岳会の管理で素敵なステンドグラスがはめ込まれており、室内に食事用のテーブルもあったりと、使い易そうだった。私たちは広いテン場で宴会をし、寝た。

③寝起きは満点の星と天の川、さらに流星群だ。感激。小屋裏から登山道に入る。寝ぼけたからだで急下降。尾根から日の出を拝む。最終日は長ーーーい林道歩き。気づけば山容が北アルプスから北陸の山へ変

感想 3日間の長い道のりは辛かったです。しかしそんな記憶も筋肉痛の回復と共に消え、後に残るは毎日のテン場に着いた時の嬉しさや、踏破できたときの達成感、安堵感という楽しい思いでばかりでした。体力、経験共に未熟を感じましたが、お天気の神様とパーティのお二人に歩かせてもらったように思います。登山口へ着いたとき、思わずほろり

参加者名	
------	--